

審議会等の会議結果報告

1. 会議名	第3回白山地区地域審議会
2. 開催日時	平成24年8月27日（月曜日） 午後2時35分から午後4時03分
3. 開催場所	白山総合支所2階205会議室
4. 出席した者の氏名	（白山地区地域審議会委員） 今井直毅、臼井喜功、海野ミネミ、笈 晴、庄山昭子、西川正志、 服部充幸、藤谷さえ子、森川とよ子、諸木洋巳、山中啓生 （事務局） 津市長 前葉泰幸 政策財務部次長 松本尚士、政策財務部地域政策担当参事 南浦康人、 政策財務部政策課政策担当主査 高岡一聖、 総合支所長 中西義照、副総合支所長(兼)地域振興課長 森川久巳 地域支援員 後藤 久、産業振興・環境担当副参事 鈴木正則、 危機管理担当副参事 小市雅義、市民福祉課長 奥田武志、 白山事務所長 滝加寿代、 地域振興課地域企画員 辻川正仁、地域支援担当主幹 伊藤 勲、 地域振興課地域振興担当主幹 松田澄子、 地域振興課主査 岸岡康成、
5. 内容	1 あいさつ 2 地域が目指すまちづくりについて 3 津市総合計画審議会審議状況について 4 その他
6. 公開又は非公開	公開
7. 傍聴者の数	2人
8. 担当	白山総合支所地域振興課地域振興担当 電話番号 059-262-7011 E-mail 262-7012@city.tsu.lg.jp

・議事の内容 下記のとおり

1. あいさつ

地域振興課長

お待たせいたしました。皆さん、改めましてこんにちは。

本日は第3回白山地区地域審議会ということで、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。

それではただ今から、平成24年度第3回白山地区地域審議会を開催いたします。  
開催にあたりまして、会長よりごあいさつをいただきます。

西川会長

皆さん、こんにちは。座って話させていただきますのでよろしくお願いします。

本日は色々と皆さんお忙しい中をご出席いただきましてありがとうございます。

今日は、市長さんも来ていただいておりますので色々とお話しいただき、また皆さんのご意見を賜りたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

市長さん、今日は本当に御苦労さんでございます。それでは、ごあいさつをお願いします。

市長

一言ごあいさつをさせていただきます。

白山地域の審議会の皆さん方には大変地域の活性化に向けて様々なご議論いただいておりますことをまずもって敬意を表します。ありがとうございます。この地域審議会が4月13日にスタートをしたわけでございますけれども、その折にはこの後総合計画があるのでというお話しもさせていただいておる記憶しておりますけれども、今井副会長さんに総合計画審議会の委員も兼ねていただいておりますのですが、総合計画審議会の時に私の方から審議会の委員にお願いしたい、ご議論をお願いしたい視点ということで7つの視点ということをお手元の青い紙をお配りさせていただきました。これでお話をさせていただいております。数分時間をいただきましてこの点若干ご説明を申し上げご議論のご参考にしていただければというふうに存じております。

まず、1番2番でございますが、基本構想を尊重した後期基本計画の策定ということで、これは基本構想自体は10年間のものがございますので平成20年から10年間、29年まで議会の議決を経て策定をいたしております。この基本構想をしっかりと踏まえいく、業務や継続性はもちろんですけれどもその2番のところに書いてございますことと一部関連をするわけでございますが、10年間でやるべきとしていたことの確認と検証というものでございます。これは白山町時代にこの新しい津市になった時にこれをやろうということで確認をしていただいております。これをそのとおりできているのかどうか、できてないとすればそれに代わるようなことがどのように進んでいるのかというようなことをご確認をいただいて検証していただくと、今年合併後7年ということである種最後のチャンスになってくるわけでございます。ということを確認していただければならないということです。ところが、2つ飛ばして5番のところの合併特例債というものがございまして、平成18年から27年までにおこっておることになっておったわけですが、東日本大震災がございましてまちづくりが当初の予定どおりにいってないところができた関係で5年間の延長を国会がこの6月に議決をいたしました。

その結果平成27年に終わるはずだった特例債が32年まで適用可能となりました。ただ、考え方として新たにまちづくり計画の考え方を変えていくというのではなくて、期間が10年でやろうとしていたことが若干延びてもよろしいよという形になるのではないかとこのように思っております。まあそういうことの中なかでやり残っていることをしっかりとやらないといかんと。6番、7番にありますように今国・県との事業の連携ということは当然のことでありまして、対話と連携ということで市民の皆さんのお声をしっかりと聞きながら計画を進めていくということも当然のことでございます。

さて、3番、4番でございますが、地域課題ということ、そして社会経済情勢の変化への対応ということ、これは東日本大震災自体がそもそも計画を作る時には起こっていませんでしたし、その他諸々例えば鹿さん、猿さん、猪さんがですね予想以上に活動されているというようなこと、これも地域課題と新たに出てくるものでございます。こういったようなことについて当然のことながら対応していかないかと。平成18年の合併あるいは20年からスタートしている総合計画のスタート時点でははっきりしていませんでしたその後の状況の変化についてはしっかりと受け止めて対応していかないかと、これも含めてでございます。まあそのようなことで、私どもの方から総合計画審議会の方をお願いした7つの視点がございましてこれを含めまして地域課題様々にご対応いただいておりますのでこれをまた確認をしながら進めてまいりたいとこういうふうに思っております。

さて、各地域での地域審議会のご意見ということでいろいろこれから総合計画審議会の方に出していただくわけでございますけれども、あまりきれいな言葉でこじんまりとまとめていただくというよりも多少ごつごつとした、白山はこういうことがまだ残っているのだからこういうことをしっかりやらないかということはこの場でしっかり確認しておきたいということをあまりこじんまりとまとめようとされずに少しごつごつとした形で出していただいた方がいいのではないかと、まだまだこれから計画自体が作られるわけでございますので、その際立ち位置もそれぞれの地域の課題ということを明快に出してこられると思いますので、ぜひ今回白山の地域審議会からも明快にこの地域のまだまだやらなければいけないこと、残された対応事項等出していただいて、そして総合計画の中に生かしていただければとこういうふうに思っております。

今日はその取りまとめをされる途中の段階でお邪魔をしたわけでございます、随分遅刻をして大変失礼をしました。この段階でお邪魔をしたということは市長に対して、「前葉さんこれどういうふうになっておるのか今ちょっと確認しておかんとはっきりせんし」、とかあるいは「こういうことについてどういうふうに思っているのかいっぺんここで意見を聞いておきたい」とかそういうふなことを少し対話させていただいた上でおまとめいただいた方が何かと便利などころもあるのではないかとこういうふうに思いましたので10の審議会すべてにお邪魔をしておる最中でございます。ひとつ今日はその機会でございますのでよろしくお願ひ申し上げましてごあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。

地域振興課長

ありがとうございました。

それでは、事項書に従いまして会議を進めたいと思います。

津市地域審議会の設置に関する協議第9条第5項の規定によりまして、西川会長に議長をお願いしたいと思います。

なお、津市地域審議会の設置に関する協議第9条第4項で「会議は、委員の2分の1以上の者が出席しなければ、これを開くことができない。」と規定されていますが、本日は委員総数13名に対し、11名の方がご出席いただいておりますので、この会議につきましては成立していることをご報告申し上げます。

また、会議は津市地域審議会の設置に関する協議第9条第8項の規定により、会議は公開で行うものとなっております。会議の議事録は津市のホームページ上でも公開されますのでご了承いただきたいと思っております。なお、本日の傍聴者は2名です。

それでは、西川会長、議事進行の方よろしく申し上げます。

西川会長

それでは、議長を務めさせていただきますので、議事進行にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

はじめに、津市地域審議会運営規則第5条第2項により、会議録に署名する委員は2名とし、会議の始めにおいて指名するとなっております。当審議会ではお名前の50音順で指名させていただいており、今回の署名委員として、庄山 昭子委員、服部 充幸委員を指名させていただきますので、本日の会議録の署名をよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

本日は、市長さんにお越しいただいておりますが、公務の関係から1時間ほどで退席させていただきます。せっかくの機会ですので、この時間を有意義なものにしていきたいと考えておりますのでご協力をお願いします。また、会議は全文記録となりますので、ご発言の際には挙手をしていただき、マイクを使用してご発言をいただきますようお願いいたします。

## 2. 地域が目指すまちづくりについて

西川会長

それでは事項2「地域が目指すまちづくりについて」を議題とします。

まず、これまで審議会でご協議してきたこと等も踏まえまして、白山地域の将来像、方向性といった大きな視点での議論をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。意見のある方は挙手をお願いします。

筧 委員

失礼します。大三地区の審議委員の筧でございます。4月13日の委嘱式での市長のごあいさつ、また私の質問に対する確なご答弁をいただき本当にありがとうございました。普段は市長と身近にお話する機会がなく、今日はこういう形で出ていただきましてうれしく思っております。

今日のご案内のプリントの中にこんな一言がございました。「委員自らが合併前の町長になったつもりで地域の将来像、地域はこうあるべきだという考え方を述べていただきたい」とこういうコメントの文書をいただきました。ありがたいなあと思っております。

そこで、私が考えておりますこと3点を申し述べさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、私の生業70前に退職しましてそれから仕事をしているんですけどもその生業は農業でございます。当初は3反百姓の水のみから出発し、今は1町7反程の水田耕作をしております。大三地区で10番目ぐらいに入る農業になっております。まあこれからもどんどんそういう部分の受け入れもあると。

7年前の津市の農政、合併前の時と比べてどういうふうに変ってきたかと端的に感じております。7年前は大変申し訳ない言い方ですけどもほとんど津市の農政の有り様は分かりませんでした。津市のこんな分厚い総合計画、何ページにも書いてあるそれも見

させていただいたんですけども全く縁遠いものでございます。ところが、やっぱりこのような形で市長が出てきていただく、津市の行政サービスの潮目が変わったのかなと思われました。特に、前葉市長のリーダーシップのもとで変わっていくことでうれしいなあと思います。具体的にそうした中で感じている行政の資質がございましたので述べさせていただきますさらに進化をしていっていただきたいなあと思います。

まず、例えば今私たちは農地に環境保全対策事業ということで白山町でも7つの組織で頑張っておるわけですが、いままでの過去5年間、1期が終わってこれからいよいよ2期目に今年度から入るわけですが、それまでは農政局が中心になったり、三重県の担当者が中心で津市の担当はほとんど出てきませんでした。そして、津市は今はトンネル機関で書類を上げていただけという、こんなのがきているのかという正直なことでございます。ところが今年は変ります。今年はじめて3人の津市の担当が出てきていただいて、この2期目の農地・水・環境保全向上対策の2割ほど助成金がカットされて今まで240万程あったのが188万になったんですが、きちんとする説明、もちろんちょっとたどたどしい部分もあったんですけどもるる説明してくれました。やはりこういう形、今日お話しにあったような国・県との連携による事業推進ということでやっぱりトンネル機関であってはならない、地域のことを現場に一番近い市長が入ることが大事ではないかなとそんなことを実感しました。

それから、委嘱式の質問でまさに今おしゃってもらったように獣害と異常気象に苦しんでいます。そうした中で、おとといの報道機関の中に400万ほどで2名の獣害対策専門員を置かれたという、まさに目に見える実感のできる施策をしてもらえたなあとうれしく思います。こういう目に見える実感ができる形、そして2名の方々が指導性を発揮して、どこどこに出たから行くというただ単なる追い払い対策ではなくてより積極的に獣害をどのように防止すればよいのか、地域の人たちとどのように連携をしていけばよいのかという具体的な部分でしていただいたらこの400万も生きてくるし、2名の方々の動きがさるやイノシシ、ひよ鳥いろんなものに苦しむ中で農業をするのを泣いてしまう部分を脱却していくのではないかなと、そこらあたりをただ2名を置いたということではなくて実質面な部分での期待をしたいなあと思います。そうした中でやはり今後さらにイニシアチブをとっていただきたいのですが、その中の意見としては私今JA三重中央の理事をしております。その中でつくづく感じますが、もうご存知のように津市に3つの単位農協があるということ、こんな小さな市に3つの単位農協、津安芸農協・JA三重中央・松阪東部農協があるということで、そこでそれぞれになかなか連携がとれない部分やと思います。例えば香良洲では梨が中心です。津であれば都市農村ですし、ブランド化にしても私たちは一志米ということでやっております、ここにも書かしてもらっておりますが津市のブランドはなんであるのだろうと、梨と言うけれど梨のブランドは香良洲梨なんか久居なのか、それぞれなかなか農協が違えばそういう部分で連携をしていくということはとても難しい。聞くところによりますと、一番北部は四日市、桑名を中心に合併をすると聞いております。あるいは鈴鹿農協も出てくると、やはりスケールメリットを生かしながらしていく。そんな中で統一しておいた形ですしていく。それから農地集積プラン等も含めて、国の情勢としていく中で農協のイニシアチ

ブもとっても大事な地域に密着した部分だと思います。そうした中でどのようにしていくのかこれは政治的な部分も含めて単位農協の在り様というものを今後の中にぜひ入れていただきたい。言わばタブー視されていた部分もあると思いますがよろしくお願ひしたいと思います。

もう一つは、農村インフラの整備ということ、今まで私たちも土地改良により30数年経ちました。もうそこで老朽化ほころびが出ております。それをどうするのか、それはいろんな形があるんですが年なり、線なり今これを整備をしようと思ったら、例えば30メートル単位とか10年分単位とか小さなもので直していかなければならないんです。そんな時にはなかなか助成が出ない。そんなような形で今の事業に合った、今の実態に合った形でインフラをどのように整備していくかというのをぜひぜひ進めていってほしいし、津の中山間地域の疲弊する農業施策により具体的な実感できる目に見える形のものをお願いしたいと思います。これが私の生業の中から感じることでございます。

2点目は、近々の課題としてやはり地域医療や地域介護があると思います。この前、私年金なんです、介護保険が高いのにはびっくりしました。もうこれから福祉や行政サービス、やはり量的な転換ではなく質的な転換をしていかなければならないと思います。それと大事なのは地域看護と介護を連携した形、特に地域医療においた予防的なものが大事じゃないかと思ひます。昨年11月に3回、「白山・美杉地域の医療を考えるフォーラム」という特に一志病院を地域の中核として開かれました。夜寒いのに7時半から私来て何回も討議をしました。三重短大のなんとかいう先生が3月にはそれを提言する。特に兵庫県丹波市の柏原病院ではあそこの小児科を地域住民が一体となって支えたという、そこをひとつのモデル医療機関として少しでも一志病院を近づける形、特に一志病院は飛松先生という素敵な先生で、私の母も訪問看護をしていただきました。そういう形のものにしていくということで、なんとかなるかなと思ひたんですが、その後なしのつづてで一体どうなっておるんだらうか。せつかく3回も呼んでフォーラムもしたのに。やはりきちんとしたその顛末を私たちに。一志病院をこんなふうにするんだ、飛松先生がおられなくなってもこのようにしていくんだという確たるもの、個人の部分で属性でよくなるのではなくて、立体として体制的にしていく部分それは県立病院といえども津市の中核業務として津市が担ってほしいなあということが2点目です。

3点目としては、若い世代のエネルギーをどのようにするかということです。学力テストの発表がありました。ご存知のように三重県の状況はさんざんたるものでございます。鈴木英敬知事がいろいろ肝いりされてみえますが、津市の状況がわかりません。まずどのようにしていくのか教えていただきたいなあと思ひます。そして、若い世代のエネルギーについてはやっぱりスポーツの振興ということになると、オリンピックにしてもひとつの凝集性をし、いろんなことをしていくこの若いスポーツマンたちの活躍、それが地域のエネルギーになってくると思ひます。どのようにするかがとっても大事で、津メッセウィングに新しいスポーツの施設ができることは本当にいいことです。期待します。でも、なかなか私たちはあそこへ行けません。そこで、地域のすそを広げるといふ市民体育、市民スポーツ、生涯スポーツの振興ということも忘れてはならないのではないかと思ひます。今回、お陰さまで支援員を中心に、大三小学校のグラウンドがぶざま

ものでございましたが早急に直してもらいました。自治協議会長さんもおっていただきますが、盆踊りも雨が降ったんですがうまくできました。これで運動会もうまくいくなあと、本当にありがたく思っております。でも、まだ照明灯は切れっぱなしです。そんなことも踏まえて、いろんな形で地域スポーツの周辺部を整備していく。どんとのお金ではなくて地域のスポーツをどのようにしていくのかということも目配り、気配りをぜひお願いしたいと思っております。

最後に、津市のもつ負のインフラについて、それはセンターパレスであり、ポルタ久居だと思います。お陰さまで岡本前町長さんの下で白山町ではしらさぎホールという先見性のある施設を建てていただきました。恐らく白山町でこれからインフラということはないと思います。私たちにとってセンターパレスがどうなれ、ポルタ久居がどうなれそんなものはどうでもかまいません。ただそこらが負の遺産、負のスパイラルになってこないだろうかということ懸念します。そこらあたりをうまくしていただきたい。先程、合併特例債が5年延長になると言われましたが、この国の脆弱な財政状況の中で果たしてそのままでいくのかということも危惧されております。将来的なことも踏まえて負のスパイラル、負の遺産というものを関係のない郡部周辺部にどのようにするかということも考えていただければなあと思います。以上です。長々喋って申し訳ございません。

西川会長

ありがとうございました。今のご意見に対しまして、市長何かございましたらどうぞ。

市長

まずですね。獣害のところからお答えさせていただきますと、我々もできる事ひとつひとつなんですけど、これ、県の方もやってくれてるんです。この間、市長会で14市の市長の会合で、県への期待する事項を14の市が持ち寄ったんですけど、獣害については多くの市から持ち寄られて、県に何を頼みたいかというのが本当にアイデアフラッシュみたいに出てきたんですよ。市長会の事務局長もこれ全部書いときましようということで、全て書いたんです。私は知事にはもう獣害対策はどこからどこまでが市の仕事で、どこからどこが県のというのはないんで、多々益々弁ずで行きましように、従ってここに書いてあるようなものは、ひとつでも、ふたつでも、どれでもいいからやってくれというような話をしました。あんまり鹿の肉ばかり食べてもらわんと、もっとなんかやることあるでしょ、というようなことをちょっとちらつと言うたものですから、知事も苦い顔してましたけど。ただ、出てくるのがなんか鹿の肉をジビエでとか、肉が出やんようになったらコロッケが出てきたり、ソースが出てきたりしとるだけなんで、ちょっとですね私は県の獣害対策をもっとですね、やってもらえることがあるんじゃないかなあと思っております、まあ我々は今年の被害額が4,400万円、今年の予算は4,600万ですから、獣害対策に掛けているお金の方が大きいんですけども、それでもこのお金を掛けていなければもっと被害額が大きくなったはずなんで個体数調整で基本的にはいくしかないんじゃないかと、こういうふうに思っておりますが、これも今後しっかりやっていきたいと思っております。

それから、JAの合併、私もタブー視すべきでないと思います。ただですね、過去の

J Aさんの合併の時と比較すると、国全体がそういう誘導策というのをどんどんとっていかうという時代でないので、むしろこれは、今ビジネスとして、あるいはJ Aの今後の在り方としてどうかということもJ Aさん御自身にある程度、御判断いただきたい。ただ、それがいざとなると、たぶん津の場合、三すくみになるということは容易に想像できますので、そういう段階で第三者が動かさないと事態が動かないというようなことが出てくる可能性が十分にあると思いますが、その場合は、もちろんしっかりとやらさせていただきますなど、おっしゃる方向は私も全く賛成します。

それからインフラの整備で今の実態にあった形でということ、そうだと思うんですね。最後言われた合併特例債でどんどん新しいものを造っていくという時代やないやろと、そのとおりであります。そういう予算付け、つまりですね、優先順位の置きどころを例えばですよ、成熟してきている、高齢化が進んできておる社会の中で、自治体として、例えば、もっと道路維持予算に、維持管理の予算あるいは、河川、これは県も絡みますけども予算にですね、河川管理の予算に移していくべきでないかという議論があって、私もかなりの部分、そういう気持ちがあります。賛同しています。それはそのとおりやと思います。道路延長が増えれば増えるほど管理しなければいけない道路が増えていのに管理予算が同じだったら管理のサービスのレベルが落ちるという話は当然のことなので、多少、建設を抑えてでもやらないかということなのかなと私も思っておりまして、そのあたり、もう少しそういう優先順位のある予算づくりをしていきたいなど。それが、より地域のみなさんのニーズにも合い、そして地域の企業さんたちが安定的に仕事をしていただけるのにもつながるのかもしれないなど、こう思っております。

それから、一志病院の件はすみません、冒頭にご報告すべきだったんですが、医療を考えるフォーラムというのがこれは県のですか、私どもののですか。

地域振興課長

すみません。昨年ありましたのは短大の方で、毎年テーマを決めて短大の予算でやっていただいているんですが、その中で昨年度は白山・美杉地域の医療ということで地域の方々のいろんな御意見等を聞くと、一応研修という形で私どもの職員も参加させていただきました。結果につきましては短大の方で報告はさせていただいております。ただ、市民の方にはこれについてはこうでしたというような丁寧な報告がなされていない部分がありますので、それにつきましては、次回の中でよいのかどうかですが、また何らかの形でご返事させていただきたいなあとと思います。

市長

そういうことでございまして、市民の皆さんに伝わっていないし、市長にも伝わっていないということで申し訳ないのですが、ただ、一志病院自体は去年から三重大と三重県からいろんな提案をいただきまして、今年三重大の地域医療学の寄附講座を置くということで、実は先程三重大学長と知事と私で協定書の調印式をやってきました。これによりまして一志病院に家庭医療学のドクターが9月から1人着任をします。さらに、来年の4月からもう2人着任し、3人分の人件費に当たる分を研究費とともに、毎年3,440万円の予算措置をいたしまして一志病院の体制に取り組んでおります。

それで、津市としての責任がどこまでかということにははっきりしないんです。県立の



病院ですから。県がやってくれればいいんですが、ただ私どもは2つの論点、1つは地域医療、家庭医療が白山、美杉の中で一志病院が占めている役割というのが非常に重要だということでこれからもこの役割を引き継いでいっていただきたい。これは私ども地方自治体としてご協力するべきものである。もうひとつは、救急でして、救急は全然違う理由なんです、なかなか受け入れがスムーズにいかないということで救急車も困っておりまして、白山、美杉のところはまず一志で診てもらって、それでだめだったら三重大へ行ってもらうということが比較的あるんですが、近いところなのに一志町から一志病院へほとんど搬送されていないんですね。搬送先が決まらず時間だけが過ぎてしまう場合があります。例えば、榊原、美里からでもグリーン道路を使えば近いのに白山に来ていないですね。これは本当にもったいない、せつかくの医療資源があるのにどうかということで、しかも家庭医療、地域医療というのは基本的にはオールマイティを診ていただける場所でもありますからもっともっと一志病院を救急でも活用したいという気持ちも込めて今回寄附講座をスタートさせます。3年間、この3年間の中で実はこの研究の中にも入っているんですが、例えば、医療、福祉、介護の連携みたいなもので白山、美杉での高齢化が進んでいる中でいかに地域の総合診療をやる病院が役に立つかということの研究しながら実践をしていただこうとこういうことでやらせていただきます。これもまたPRが不足しているとお叱りを受けるかもしれませんが、もうちょっと実績が出てくる中でどんどんご案内をしていきたいなあと考えております。ちょっと答弁が長くなって申し訳ありませんが、あと2つ申し上げますと、3番目に言われた地域の中で、例えば大三小学校のグラウンドのお話を地域でもっと対応できるようにと、岡本前町長さん今日はおられますけども、町長さん時代に役場に気軽にお話伺って、すぐにやろうやらないかと迅速に対応していただいていたことが津市の白山総合支所でできなくなっているとすれば大きな問題でありますので、これは何が問題なのであろうか、権限なのかあるいは予算を総合支所長が持っていないのが問題なのかということは今までいろいろ検討してきました。その結果大体見えてきたのが、今年はとにかく地域政策課の南浦担当参事を徹底的に本庁の中で総合支所を支援する立場で仕事をするような使命を、立ち位置を変えろというかひっくり返すというか、本庁は総合支所からなにかお話があったら、まあそう言わんとあんとここで解決しておいてとなだめるというか、断る方の立場だったのをそうではなく逆に白山のお話があったら一緒になって南浦参事が本庁で実現に走るとこういう形にしたのですが、この路線をもうちょっと徹底をして、そして場合によっては総合支所の方で自ら解決できるように権限と財源がもうちょっとなんとか措置できないのか。だからといって先祖返りしていく、昔の役場に戻っていくのじゃなしに、真に最前線で必要とするパワーと金は何なのかということは今議論しています。ちょっと総合支所によっていろいろ意見が違うのが正直なところですが、まだまとまっておりませんがもう1歩でも2歩でもうちょっと地域課題に即応できる総合支所を目指してこれからもうちょっと議論をさせていただいて来年度とにかく処理つきたいなあと考えております。

4番目の、負の遺産のお話、そのとおりでありまして、私はこれは聞いてないと、市長就任時聞いていないと。まあしかし、財務諸表を見れば一遍にわかるわけですが、例

えばセンターパレスなんかはすごいことで昭和54年に買った時に20億、5回も買っているんですね。今の時価は3分の1です。そうすると12~13億のふくみずを抱えたままずっと来ているんですね。こんな会社の経営はうまくいくはずがないですね。久居のポルタだって147億の事業費で平成10年にできているんですが、その前の仕込んでいた時の地価だって大変なものですよね。その金額が取り戻せないというのは当然なんです。おっしゃるとおりこれは負の遺産ですので、早く決着することが大事であると思って、従ってセンターパレスは去年、ポルタは今年と次々案は出しております。議会でもいろいろとご意見はありますが、こういうご意見は過去においてしておいていただくべき議論であったのではないですか、と私は言える立場でありますので今のうちは早く鉄は熱いうちに打った方がうまくいくと思いますのでやらせていただきたいというふうに思っております。

以上でございます。

西川会長

ありがとうございました。他にございませんか。

海野委員

時間の関係上、答弁はよろしいので構想だけ述べさせていただきたいと思います。

まず、安全・安心のまちづくりには、ソフト面とハード面あるんですけど、若干ソフト面で申し上げたいと思います。最近、子育てを放棄する、児童虐待、いじめ、窃盗、最終的には殺人と全国的に増えてきております。津市にはないですが、これらの内容を見してみると起こした人だけの責任でなしに、育てられた家庭環境にあると思います。全国的に見るとそうだと思います。私が思うのは、生れてから亡くなるまでの間、育児教育から幼児教育、義務教育、学校教育、人権教育、それと家庭教育、全体する社会教育を十分に行う必要があるんじゃないかと思っております。

現在、津市としても教育委員会が頑張っていていただいて教育研究支援、あるいは人権教育、生涯学習課がありますけど、どうにも机上論だけで実質的には、まだ、見えてきてこないなと思っております。できれば、もっと現場に出掛けてもらって積極的に実行していただけないかなと思います。ただし、この教育関係については教育委員会だけじゃなくて、一般行政も参入すべきであると考えております。悪いところがあれば、もっと言っていただくようなチームを作っていただいて、一般の行政も参入してもらいたいと思います。特に人権教育を行っている学校区では、白山は特にそうなんですけど、子どもや保護者の方の人柄が非常によろしいです。それと思いやりや温かさが実にあります。本当にこれは、人権学習のおかげだと思っておりますが、どうにも人権といいますと部落差別を言われるんですけど実は、そうではないと思います。人を思いやり、あるいは助けたり助けられたり、共に生きていくということは本当に無限の力を持つ人間の人間を作っていく基だと思っております。そういう意味で家庭教育というのは非常に大事なところでございますので、できれば一般行政を含めて、教育委員会だけでなしに頑張ってもらいたいと思っております。

それとハード面もいろいろとあるんですけども、ひとつだけちょっと思うのは、最近では東南海地震等の心配もあり、津市なんかですと大きな津波が来れば本当に一挙に飲み

こまれると思われませんが、もし、津市で防災センター若しくは大規模な貯蔵倉庫の建設の予定があれば、白山町の雲出川の北側、例えば、大三の文化センターのとなりですけど大きな駐車場等、舗装もされていないところもあるんですけども、そこは地理的に交通面とか非常に立地条件がいいと思っております。そこは標高135メートルぐらいあってですね、地震や津波、台風における浸水、山津波も絶対にならないと言えるほどの場所で、近くに山もないし、地盤も非常に堅いということで適地ではないか思います。また、交通面で国道や県道、グリーンロードがございますので、物資を津市内のどこでも30分ぐらいで運搬できると思いますし、ちょっと見晴らしのいい所ですので、ヘリコプターで物資を運ぶというのも可能ですので、もし、そういう計画があれば、ひとつの候補地に上げていただきたい。

あと、白山総合文化センターのしらさぎホールですが、近隣の一志、美里、美杉、榊原にはこのようなホールの施設がないので、もっと利用してもらうよう働きかけをしてもらうことはできないかなと、ほとんど今白山町だけの方や若干の学生が利用していますがもっと利用していただきたい。それとひとつ思うのは、その場所を文化・合宿のまちという形で、猪の倉温泉のふよう荘で宿泊していただき、しらさぎホールで練習等をしていただいて成果を上げていただきたい。これについては、県内はもとより、東海地域あるいは関西地域の高校や大学の方々の合宿ということで夏休みや冬休みなど利用できないかと思っております。これはそれに対するPRをしないとイケないと思いますので職員の方々はそういうところにもっと力を入れていただければ有難いと思っております。近鉄線の榊原温泉口駅からコミュニティバスも出ておりますので、そういうのを利用していただくと一石二鳥ではないかと思っておりますのでよろしくお願いします。以上簡単でございますが、もう答弁はよろしいです。

山中委員

申し訳ないですが、非常に寡黙な意見になるんですが、私は、この間の委嘱式に行きまして、一番びっくりしたのが皆様がお年寄りばかりで、もちろん行政に長い間携わっている方の経験とか地域に貢献された意見というのはものすごく大事であると思うんですけど、なんか不思議な感じをしました。市長もオープンディスカッションなどを利用して若い人たちの意見も聞いていらっしゃると思うんですけど、若い市長なんかはフェイスブックとかツイッターなんか利用してどんどん意見を発信してらっしゃるんで、そんなのを見ると若い人たちが取っ付きやすいんじゃないかなと思います。5年前の調査ですが、全国的にも400万ヘクタール近くの耕作地の1割近くは耕作放棄地になっている。私らの近くでもそういう状況で、若い人たちに任したりお願いしたりするしかないなあという状況であると思うんです。ですから、若い人たちがこういう場で一人でも参加していただいたら、良い意見いただけるんじゃないかと思っておりますのでよろしくお願いします。

庄山委員

庄山昭子と申します。先ほどの御意見と重なる部分もあるんですけど、ひとつに私が期待していることをまず最初に申し上げます。私は仕事の関係で国体とか全国スポレクとか総体とかねりんピックとかいろいろな所に視察に行きました。その時に一番感じ

ましたことは、三重県は本当に施設がないということです。大きな大会をひとつの所で開く施設が全くございません。伊勢にはサンアリーナとか鈴鹿にもありますけど、みんな中途半端で、県が南北に長いでかなと思ながらいろんな県の施設を見てきましたが、この度、総合スポーツ施設を津市で建設していただくということでございますので、この際でございますので、立派な全国で誇れるすごいなあといわれるようなものを是非お願いしたいと思っております。あと問題なのは、維持管理とか施設の利用だとかそういう諸々のことで、本当に三重県のような色々な施設も困っていらっしやいますし、他の県も困っていらっしやると思いますが、津市の場合、受益者負担という考え方が非常にあって、かなりお金を出さないと使わせていただけないというような事があります。素晴らしい施設の場合は仕方ないかもわかりませんが、例えば白山町のときは、弱者については無料で貸していただいた。例えば小学生、中学生、高校生など子どもたちには無料で貸していただいた。ところが津市に変わったときには、それは全部お金を出さなければいけなくなった。子どもたちはお金があるわけではございませんので、それは全部、保護者負担になるわけです。例えば、プールにしても白山地域には、市営のプールはございません。受益者負担です。津や久居のプールを利用しなければなりません。以前は学校のプールをかなり長い期間、開放していたということで、津市になってなにか、弱者に対して非常に厳しい状況になったと感じております。先ほどのスポーツ施設の期待と相反することを言うんですけども、そういうようなことで、そこらへんのところを見直していただいて、弱者にはもう少しやさしくしていただくと有難いと思っております。最初の方のスポーツ施設については本当に期待しておりますのでよろしくお願い致します。

それから、もうひとつ住みやすいまちづくりというのを私たちは期待しております。このいろんなプログラムを見させていただきますと中部エリアはみのりとぬくもりの郷づくりということで津市全体を見ますとそういうふうなイメージがあるんだろうと思うんですけど、私たちは、この白山町に生き、この白山町に住み、この白山町で向こうへ行かさせていただくんだろうと思います。という事は、みのりとぬくもりの郷づくりをしていただいても、それはそれで素晴らしいことですが、私たちが住む白山町がやっぱり住みやすいようにショッピングがあり、病院があり、スポーツ施設が割と使えて、道路、駅、学校、そして地域の特性、こういうものもゾーン別に、ここはこれだけ、ここはこれだけ、ここはこれだけと言うのではなく、やはり全ての所にそういう住みやすいまちというのを一番に置いていただいて、それからそれぞれの特色を出していただくということを是非お願いしたいと思います。今のところ白山町は、それほど困った事はなく、病院もありますし、近鉄もJRもありますし、割とその他の面もまあまあなんですけど、ショッピングセンターも1つ無くなってしまいました。たぶんお年寄りの方は特に不自由していらっしやると思っています。そういうようなものがどんどん無くなっていくことがないように行政の方で見守っていただきたいとこのように思います。

今井副会長

私の考え方はまた全然別なものなんですけど、この地域が過疎化にならない工夫が必要だと思っております。それで、公民館活動、生涯学習のことをいろいろやっております。

津市になってから公民館活動にお年寄りが参加するのにお金がいるようになったんです。これは総合計画審議会にも同じことを言っています。この集めたお金は何に使われているかと尋ねると、講師料などに使っていると返事が返ってきています。しかし、お金がいるんならということで公民館に出てこられる方が非常に減りました。そうするとだんだん過疎化になる。それはもう事実なんです。それと地域に下ろしてもらっていたお金が、白山町時代には60万ぐらい各地域にいただいていたのですが今は、10万円です。それでなぜ10万円に減ったかという津市全体の事を考えるとこれだけしか出せないということでした。私たちが思うのは、そういう地域の公民館活動、それから文化振興会が動いている内容を見てもらって、それを判断してもらって過疎化を止めてもらいたいというのがひとつです。

それと各地に名所、旧跡と言われる観光地がございます。私は観光ボランティアガイドをやっておるんですが、いろいろ津市の協議会で津市長も観光協議会長と話し合いをされてみえると聞きますので、全体を通じてですが、やはりこの地域の初瀬街道がございます。この一連の活性化という、各地区に残っている名所、旧跡を途絶えないようになんとかしたいと思いますのでお願いします。以上です。

#### 服部委員

元取の服部でございます。みなさんも御存じのとおり元取地区は旧境村から家城町、白山町、津市と合併いたしまして、その間70年が経っております。昭和35年、36年の人口は約800人、戸数160戸ありました。今日現在の人口は130名です。先般、市長が盆踊り来ていただきましたけども、その時は160名が参加しておりました。出てる者が帰ってきてもらってるんですが、うちの場合は学校も商店街も皆、無くなりました。今、住民が一番期待しているのは公民館なんです。唯一の要は公民館なんです。それで、公民館の横に小学校の講堂がございます。これは、今年の2月ごろから大変雨漏りがするんですよ。何度も要請しているんです。見積りは取ってもらったみたいなんですけど、先般の盆踊りの晩に白山事務所長にも来ていただきましたけども、現状を見てもらったようにたらいを五つも六つも受けている現状なんです。予算のことは分かりませんが、教育予算か一般の予算でやっていただくのか、その点ひとつ、地区住民が一番の拠り所としておりますので強く要望したいと思います。

それと簡易水道でございますが、この上にたくさんの産業廃棄物がほられております。これも今年の3月に要請したんですけど、なんらその後、新しい進展もなく、この間も見てきたんですけど変わって無いように思いますので、この辺の対処についてもよろしくお願いします。それから、先程出ておりましたプールの問題もありますが、当地区としては人口が減っておりますけど、60歳以上の高齢者が約70名という状況でございますので、少しでも過疎化の対策について市の格別なる御配慮をいただきましたと思いますのでよろしくお願いします。

#### 臼井委員

大三の臼井でございます。ぬくい郷ではいろいろとご指導いただいております。ありがとうございます。ちょっと、ぬくい郷にも関係いたしますが、このプログラムの中部エリアの大きな柱として、食のブランド化という言葉があります。先般の津

市議会だよりで岡本議員の方からも地域の農産物のブランド化について質疑がございました。そういった中におきまして、ぬくいの郷を立ち上げましてからちょうど7年になるわけですが、ほぼ順調に推移はいたしておりますけれども、ここに至りましていろんな問題が出て参ります。そのひとつとして、生産者の高齢化、全国的に一緒だと思えますけど高齢者ばかりで会員が今まで元気だったのが、急に顔が見えなくなってどうしたんやという、入院していたとかいろいろな部分がございます、生産者の確保というのに頭を悩ますという現状が出て参りました。そういった生産者のグループというのが重点施策の中でうたわれているわけなんですけど、特に大規模農業を直売所の方では期待しておるわけですが、特に商品の品数を多く、趣味の延長の中で生産し、直売所を通じて販売をすることによって小遣いを稼げるという楽しみが高齢社会の中でも必要かと思えます。そういった中で、直売所の充実というものも地域貢献の中では、大きな色合いを占めておるのではないかと考えております。いろいろ具体的な施策は書いていただいております。例えば地域の栽培種目を選定し、苗木の配布額の定着化を推進するとかあるわけですが、その中におきましても、先に申し上げましたように、特にいろんな物を、例えば葡萄であるとか、桃であるとか、私も柿を5、6軒で5町ばかり作っておるんですけど柿でありますとかいうことで、白山へ行くとか何か面白いものがあるというのが、「農」を通じて、大きな地域の活性化につながるひとつだと思います。そういったものをいわゆる土壌や気候等ありますので、どこにどれがということがなかなか難しい部分あると思いますが、そういったものを十分意識をさせていただく中でそういう生産グループを各地に作り、あそこへ行ったらいろんなものがあるわと、例えば長野県あたりですと色々な物が作られておるわけなんですけど、そういうものを目指していくなかで中間山村の特性を活かしていただくような方策をお願いしたいところでございます。

ちなみに、多少コマーシャルも入るんですが、ぬくいの郷におきましては、野菜を今までは生産者が、例えば5種類の野菜を持ってきまして、一か所に生産者ごとに陳列しておったわけです。それを9月1日からは、例えば色別野菜に分けてみようということで、野菜を青色野菜、赤色野菜、白とか黒とか、黄色野菜というふうに。これは何かといいますと、そういう野菜が持っておりますパワーというのがいわゆる、いろいろな臓器によく、健康に寄与するというものがありまして、その色をバランスよく、毎日食べることによって健康につながるという、そういうものを結びつけて、9月1日からちょっと陳列方法を変えて皆様に選ぶ楽しみを持ってもらおうかなと、今、準備を進めておるわけです。そういうような中におきまして、白山唯一の直売所でございますので、ひとつ今後におきましても行政の御支援を賜るなかでなんとか頑張っていけたらと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

西川会長

どうもありがとうございました。他にございませんか。

諸木委員

家城地区の諸木です。先ほど、まちづくりの問題でちょっと御意見がありましたけども、当初、岡本町長時代でしたか、地域のまちづくりということで、家城ラインの瀬戸

ヶ淵に千方将軍の伝説がございまして、そこを公園化しようということで、実際に岩場を埋め立てて、千方将軍とそれから白山の伝説のいわゆる白山神社のいわれのある場所でございますが、それを整備していただきまして、今現在に至っておりますが、津市になってから、まちづくりでせっかくしていただいたものがどこかに消えてしまって、今草刈りとあとの清掃事業、観光美化事業という形になってしまって、台風で荒れた部分もございすけども、ひとつも整備をされないといった状況です。白山町時代に、千方将軍に絡んでこの千方将軍がいわゆる4人の家来がものすごく力をもった鬼がおったから全国の鬼サミットに参加したことがございます。そして、その当時、本も出していたんですが、それが全く活かされておらず、どこへ行ったのかわからない状態ですので、持続していくのに一生懸命に草刈りなんかやっておるんですけども、荒れたところがひとつも整備されないの元に戻していただきたい。せっかく岡本町長の時代に整備していただいたので今後も整備に力を入れてもらいたいと思います。

西川会長

どうもありがとうございました。それでは、市長さんどうぞ。

市長

ありがとうございました。

海野委員から答弁はいいよと言われましたけど、正に、そのしらさぎホールを練習場に使って合宿という話を今ひとつ進めてまして、26年の3月になるんですけど、全日本合唱連盟のコーラスの選抜チームを一週間、26年の3月に40人ぐらい全国から来てもらって、実は今年に1回目を東京でやったんです。来年は富山でやります。3番目を津でやってもらうということで、白山しらさぎホールを合宿所にして、最後の日だけ、リージョンプラザに出て行くと、土曜日が最後の日ですので、月曜日から金曜日までをしらさぎホールでやってもらいます。こういうことで、正に、私も海野委員と同じ発想して、せっかくしらさぎホールでやっていただくので泊ってもらうのは、猪の倉でお願いできやんやろかと、全日本合唱連盟ですので、こちらがお金を払うのではなくて参加者が払うんで、金額が合うかどうかで折衝していたんですけど、どうもなっとかなりそうなんで猪の倉に泊っていただくようにし、これを一度やってみたらですね、あ、こういうことができるんか、ということで、できれば私は音楽とか演劇でもいいと思うんですけど、そういういろんな合宿をですね、しかも本物のホールで練習できるというのはめったにない話で、あんないい音響ホールでね、ということでちょっとこれをひとつPRしていきたいと思います。全日本合唱連盟が主催するユースクワイア、第3回になると思います。これは記者発表なんかで発表してますんで、また詳細が決まりましたら御連絡したいと思います。

それから、山中委員が言われたように若い人たちのことについて、そのとおりで、私もフェイスブックを少しやってるんですけど、まずはですね、今、私自身はケーブルテレビとか広報津で、なるべく情報を発信するようにしています。発信すると面白いもので、きちんと答えが返ってくる。「市長は、こういうふうに思っておったんやなあ」とか「それでええわ」と言われたり、「いやいや、そうとちょっと違ってなあ」とかなど。あれは、言うてみないと分からないんですよ。「私がこう考えていますけど、どうです

か」で一番感じたのは、瓦礫の広域処理のときに、このことについて書くのは勇気がいりましたけど、書いてみたら、かなり反応がありました。「あんたの言うようにでいい」というふうに言って下さる部分は確認できますし、「違うぞ」と言われる部分は、私が感じとったのが市民の皆様と感覚が違ったのかなと確認できますので、これからそういうふうにもっとやっていきたいと思います。

それから庄山委員と今井委員がおっしゃったスポーツ施設と公民館の料金の話ですが、これですね、若干分かりやすくいいますと、実は公民館の話もスポーツ施設の話も料金が10市町村でばらばらであったわけです。それをそろえようということでやってきた結果が、今こうなっているんです。住民の方から御覧になると今まで無料やったのにとか比較の対象がその料金を、そろえる方は10市町村の料金を横に並べて比較している。住民から見れば、今までと合併後というのが比較の対象となっているわけですね。住民の方々にとっては、ちょっと不満とかスポーツ施設も使いにくくなるやないか、公民館へも行きにくくなるなど、おっしゃるとおりなんです。これやったら申し訳ないんですけど、今までのところは一応ばらばらのものを統一しようというところまで進んできたということで、御理解はいただけないとしても、一応そういうものやと受け止めていただいたうえで、これから先なんですけど、これはちょっと先ほども道路維持の方にもっとお金を回してもいいのかなと申し上げた事と同じことで、例えば、これからの行政のお金の使い方として、もう公民館の講座の負担金を無しにして、その部分をもっと行政がお金を投じようとか、あるいはスポーツ施設を学校が使う部分については、もっと安くしようとか、そういう使い方をもうすべきということならですね、他に使う所のお金をそこに回すしかないわけですね。そしてひょっとしたら、ごみの収集回数が一回減るかもしれないけども、それでもええやないのというような議論になるのかなと思います。別にごみの収集回数を一回減らすというわけではないですよ。決められたお金の使い方として、もうそっちに回していこうやないかと、ところが何を何に使うべきという御意見が違うもんですから、それで冒頭に申し上げましたように多少ごつごつとしたことを言ってもらっていいですよというのは、白山の地域審議会での御議論として例えば、小学校がスポーツ施設を使う場合は無料にすべきじゃないのとか、公民館でこれは高齢者対策にもなるし地域の福祉の推進にもなるやないのということであれば、そういうことを書いていただいたらいいと思うんですよ。それを施策として、できるかどうかというのは、今申し上げたように予算の全体の中で、もうウェイトシフトしかないんですよ。ようは、優先順位を変えてしまう。これからはできます。これまではちょっと難しかった。金額のばらばらのまま、津市の一体感というのはできていないので今までは仕方がなかった。ただ、皆様のおっしゃることはそのとおりだと思います。

元取のは、滝さんお願いしますね。

それから、白井委員が言われました色別の陳列をまた見に行きますので楽しみにしています。ただ結局、緑同志というのはそのとおりやと思うんですけど、今までちょっと私も不便だと思ったのは、例えばピーマンが、あっちと、あっちと、あっちに置いてあって、どれを買うかはですね、Aさんの陳列だけでなく、Bさん、Cさんのと、自分で動いて比べんならんだったというのは、ピーマンが一か所に置いてあったら、お客さんに



とってもいいと思います。

それから瀬戸ヶ淵の話は、もしおっしゃてるような状況であればちょっと問題やと思います。何かこうできることちょっと考えてみます。そういうことでございますのでしつかりやりますのでよろしくお願ひします。

すみません、網羅的じゃないかもしれませんが、ちょっとコメントさせていただく部分は以上です。

西川会長

どうもありがとうございました。ちょっと時間がオーバーしましたけど、ありがとうございました。今後、皆様にいただきました御意見や市長の意見を踏まえ、審議内容をまとめていきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

それでは、市長におかれましては時間が参りましたので退席していただきます。お忙しい中どうもありがとうございました。

市長

どうもありがとうございました。

(市長退席)

西川会長

それでは、ここでちょっと10分間休憩いたします。

(休憩)

### 3. 津市総合計画審議会審議状況について

西川会長

それでは、事項3「津市総合計画審議会審議状況について」今井副会長からご報告いただきます。今井副会長よろしくお願ひします。

今井副会長

5月から4回、行われました。まず一回目は市長が津市まちづくり計画総合計画について、話をされまして、こういう本が出てます。これには、先ほど話ができました合併特例債、これのいろいろなことが、いくら使っていつ完成するんだというのがでてます。これは津市のホームページで全て公開されております。内容は全く同じでこういう状態で出てきております。その後ですね、役員が会長副会長を含め30名おりまして、審議に入ったんですが、会長さんは三重大学副学長に決まりました。

第2回目は6月に行われまして、これの審議の進め方、この内容をいろいろ検討しまして、各委員さんから一人一人どういう事を思っているのかを語られまして、それが記録として残っております。

3回目、7月なんですけど、3つの分科会に分かれて話し合おうと、先ほども話されました、美しい環境と共生するまちづくり、安全で安心して暮らせるまちづくり、豊かな文化と心を育むまちづくり、こういう3点の分科会に分かれて、3回目、4回目、やっております。私の入った分科会は豊かな文化と心を育むまちづくり、参加と協働のまちづくりの分科会ということで参加しております。30人のうち11人がこのメンバーに

入りまして、各地域の審議委員が4名、津市文化芸術団体連絡協議会理事、これがハッ山の小泉さん、津市観光協会副会長、これが家城の服部さんで、たまたま白山3人がメンバーに入りました。ここでいろいろな話が出まして、先ほどから話の出てますスポーツの話、地域活性化の話、観光ボランティアガイドの育成の話、服部さんから例の瀬戸ヶ淵と家城ラインの活性化の話が出てます。ということで4回終わりました、5回目が9月26日に行われるのですが、これのまとめ、それから10月、11月と月1回行うのですが、これの答申する内容の検討、12月には提出したいというのが今の状況でございます。内容的には中間報告という形なのですが、この程度でとりあえず報告しておきます。それと、この前テストありましたよね。全国学力テスト。あれで三重県、特に津市は悪かったということで土曜日に学校を開催して、元に戻して勉強せんと津市は落ち込むんじゃないかという話がさかんに出てました。白山の学力テストの内容というのは教育の方で把握されているんですか。

白山事務所長 白山のだけというのは出てないです。

今井副会長 そういうことでいろいろな面から話出ておりました。以上で終わります。

西川会長 ありがとうございます。

#### 4. その他

西川会長 それでは、事項4「その他」について事務局何かありませんか。

地域振興課長 すみません、今日はどうもありがとうございました。今回いただきましたご意見等の関係につきましては「津市総合計画後期基本計画の策定に係る意見・提言について」という形で白山地区地域審議会から津市総合計画審議会に上げていくという格好で、そこから最終的には答申されるということになりますので、また白山としての意見につきましては、取りまとめさせていただきますたら、御確認させていただくということで、御相談させていただきますのでよろしく願いいたします。

西川会長 他にございませんか。

担当主幹 失礼します。前回の審議会におきまして、森田委員から青山高原コース遊歩道の整備写真をということをお話いただきましたので、今、配布させていただいております。まず写真の一番下の施行後というところがございまして、その横に書いてある番号が地図上の番号でございまして、そちらに設置をしたということでございます。よろしく願いいたします。

西川会長 他にございませんか。

今井副会長 地域審議会とは直接関係ないんですが、地域活性化のことで10月28日、日曜日

ですが、白山総合文化センターで「2012ふれ愛フェスタ in 白山」というのが、朝から夕方まで行われます。ここに松田さんとか、伊藤さんとか来ていただいて内容の方は全部御存じですけども、前々から、副総合支所長が白山で一番大きな行事だと言われております。それにかなりお金を市からいただいておりますので、市の方も是非御協力のほど、出ていただいて活性化につなげていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

西川会長

ありがとうございました。他にございませんか。

他にはないようですので、本日の審議会は終わらせていただきます。長時間にわたり大変お疲れ様でした。

午後4時03分閉会